

平成19年 6 月29日  
平成19年10月 3 日  
(一部補正)

鳥取大学大学院医学系研究科  
保健学専攻博士後期課程設置計画書  
(抜刷)

国立大学法人 鳥取大学

## 基本計画書

基本計画									
事項	記入欄						備考		
計画の区分	研究科の専攻の設置								
フリガナ者	コリツダガクホクシノトリダガク 国立大学法人 鳥取大学								
フリガナ大学の名称	トトリダガクガクイン 鳥取大学大学院 (Graduate School of Tottori University)								
大学本部の位置	鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101番地								
大学の目的	<p>〔大学院の目的〕 鳥取大学大学院は、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究めて、文化の進展に寄与することを目的とする。</p> <p>〔医学系研究科保健学専攻における教育研究上の目的（修士課程）〕 医学系研究科保健学専攻は、優れた倫理観の上に立ち、看護学及び医用検査学分野の幅広い高度な教育研究を行うとともに、当該分野の幅広い高度な知識と技術を持ち合わせた研究者、又は専門看護師や専門臨床検査技師の高度専門職業人を養成することを目的とする。</p>								
新設学部等の目的	<p>保健学は、医学の進歩とともに発展してきたが、その過程を見ると、社会構造の変化やそれに伴う政策の変遷に影響を受けている面も多い。言い換えれば、保健学そのものが常に流動性をもった学問であり、社会構造等の変化に対する柔軟性を要求されてきた学問である。近年の高齢化社会の進展や少子化など医療を取り巻く社会環境の変化に対応するためには、現在の保健学を更に発展させ、人々の健康と福祉への更なる貢献が求められている。</p> <p>このため、看護学と医用検査学の両分野を分離することなく一体化し、「統合保健学」として教育・研究を行うことにより、これまで両分野単独では見逃されてきた問題点が浮き彫りとなり、新しいテーマの発見や研究方法の向上など、新しい展開を図る。</p> <p>今後、地域の医療に貢献し、地域連携を深めるため、医療や疾病を含めた保健学の本質を学び、自分が独立して研究することができる教育・研究者の育成を本学で行うことを目的に、鳥取大学に「統合保健学」という新しい概念を持った医学系研究科保健学専攻博士後期課程を設置する。</p>								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限 年	入学定員 人	編入学定員 年次 人	収容定員 人	学位又は称号	開設時期及び開設年次 年 月 第 年次	所在地	<p>【基礎となる学部等】</p> <p>医学部 保健学科</p> <p>医学系研究科 保健学専攻 (修士課程)</p> <p>14条特例の実施</p>
	医学系研究科 [Graduate School of Medical Sciences] 保健学専攻 [Health Sciences] (博士後期課程) 計	3	4  4	—  —	12  12	博士 (保健学)	平成20年4月 第1年次	鳥取県米子市西町86番地	
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・医学系研究科医学専攻博士課程の入学定員4人を医学系研究科保健学専攻博士後期課程の入学定員に移行（学内定員振替）。</li> <li>・平成20年4月、工学研究科機械宇宙工学専攻、情報エレクトロニクス専攻、化学・生物応用工学専攻及び社会基盤工学専攻を設置予定。</li> </ul>						<p>保健学専攻(修士課程)は、保健学専攻(博士前期課程)に変更予定。</p>		
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
	医学系研究科 保健学専攻 (博士後期課程)	講義	演習	実習	計	12単位			
		5科目	4科目	1科目	10科目				

	学部等の名称	専任教員等						兼任 教員	
		教授	准教授	講師	助教	計	助手		
教 員	新 設 分	医学系研究科（博士後期課程） 保健学専攻	人 13 (13)	人 4 (4)	人 1 (1)	人 0 (0)	人 18 (18)	人 0 (0)	人 1 (1)
		計	13 (13)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	18 (18)	0 (0)	1 (1)
組 織	既 設	地域学部 地域政策学科	7 (7)	3 (3)	4 (4)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	7 (7)
		地域教育学科	16 (16)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	28 (28)
の	概	地域文化学科	7 (7)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	12 (12)
		地域環境学科	7 (7)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	6 (6)
要	分	(学科共通)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	5 (5)
		附属芸術文化センター	4 (4)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
		医学部 医学科	33 (33)	28 (28)	20 (20)	49 (49)	130 (130)	3 (3)	74 (74)
		生命科学科	6 (6)	8 (8)	0 (0)	14 (14)	28 (28)	0 (0)	13 (13)
		保健学科	22 (22)	11 (11)	7 (7)	19 (19)	59 (59)	2 (2)	36 (36)
		附属病院	3 (3)	8 (8)	36 (36)	69 (69)	116 (116)	0 (0)	0 (0)
		附属脳幹性疾患研究施設	4 (4)	4 (4)	1 (1)	5 (5)	14 (14)	0 (0)	0 (0)
		工学部 機械工学科	8 (8)	4 (4)	4 (4)	6 (6)	22 (22)	0 (0)	1 (1)
		知能情報工学科	8 (8)	8 (8)	0 (0)	5 (5)	21 (21)	0 (0)	5 (5)
		電気電子工学科	7 (7)	7 (7)	0 (0)	3 (3)	17 (17)	0 (0)	6 (6)
		物質工学科	7 (7)	5 (5)	0 (0)	5 (5)	17 (17)	0 (0)	3 (3)
		生物応用工学科	5 (5)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	5 (5)
		土木工学科	7 (7)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	17 (17)	0 (0)	4 (4)
		社会開発システム工学科	5 (5)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	14 (14)	0 (0)	5 (5)
		応用数理工学科	6 (6)	3 (3)	1 (1)	3 (3)	13 (13)	0 (0)	2 (2)
		(学科共通)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (1)
		ものづくり教育実践センター	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		農学部 生物資源環境学科	22 (22)	20 (20)	3 (3)	6 (6)	51 (51)	0 (0)	11 (11)
		獣医学科	11 (11)	9 (9)	1 (1)	6 (6)	27 (27)	0 (0)	5 (5)
		(学科共通)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	1 (1)
		附属フィールドサイエンスセンター	5 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
		附属菌類きのこ遺伝資源研究センター	2 (2)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
		附属動物病院	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
		(全学共通教育)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	— (—)	56 (56)
		地域学研究科（修士課程） 地域創造専攻	23 (23)	11 (11)	3 (3)	0 (0)	37 (37)	0 (0)	0 (0)
		地域教育専攻	15 (15)	5 (5)	1 (1)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	6 (6)
		医学系研究科（博士課程） 医学専攻	31 (31)	27 (27)	19 (19)	25 (25)	102 (102)	0 (0)	5 (5)
		(博士前期課程，博士後期課程) 生命科学専攻	4 (4)	5 (5)	0 (0)	6 (6)	15 (15)	0 (0)	0 (0)
		(博士前期課程，博士後期課程) 機能再生医科学専攻	9 (9)	6 (6)	0 (0)	7 (7)	22 (22)	0 (0)	12 (12)

	学 部 等 の 名 称	専 任 教 員 等						兼 任 教 員
		教 授	准 教 授	講 師	助 教	計	助 手	
教 員 組 織 の 概 要	(修士課程) 保健学専攻	20 (20)	11 (11)	1 (1)	7 (7)	39 (39)	0 (0)	11 (11)
	工学研究科(博士前期課程) 機械工学専攻	8 (8)	4 (4)	4 (4)	6 (6)	22 (22)	0 (0)	2 (2)
	知能情報工学専攻	8 (8)	8 (8)	0 (0)	5 (5)	21 (21)	0 (0)	5 (5)
	電気電子工学専攻	7 (7)	7 (7)	0 (0)	3 (3)	17 (17)	0 (0)	1 (1)
	物質工学専攻	7 (7)	5 (5)	0 (0)	5 (5)	17 (17)	0 (0)	2 (2)
	生物応用工学専攻	5 (5)	5 (5)	1 (1)	2 (2)	13 (13)	0 (0)	1 (1)
	土木工学専攻	7 (7)	8 (8)	0 (0)	2 (2)	17 (17)	0 (0)	1 (1)
	社会開発システム工学専攻	5 (5)	5 (5)	0 (0)	4 (4)	14 (14)	0 (0)	2 (2)
	応用数理工学専攻	6 (6)	3 (3)	1 (1)	3 (3)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
	(博士後期課程) 情報生産工学専攻	29 (29)	22 (22)	5 (5)	0 (0)	56 (56)	0 (0)	0 (0)
	物質生産工学専攻	11 (11)	10 (10)	1 (1)	0 (0)	22 (22)	0 (0)	0 (0)
	社会開発工学専攻	12 (12)	13 (13)	0 (0)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	0 (0)
	農学研究科(修士課程) 生物生産科学専攻	19 (19)	14 (14)	4 (4)	6 (6)	43 (43)	0 (0)	4 (4)
	農林環境科学専攻	14 (14)	8 (8)	1 (1)	0 (0)	23 (23)	0 (0)	0 (0)
	農業経営情報科学専攻	4 (4)	5 (5)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	1 (1)
	連合農学研究科(博士課程) 生物生産科学専攻	33 (33)	22 (22)	0 (0)	0 (0)	55 (55)	0 (0)	0 (0)
	生物環境科学専攻	41 (41)	26 (26)	1 (1)	0 (0)	68 (68)	0 (0)	0 (0)
	生物資源科学専攻	25 (25)	19 (19)	2 (2)	0 (0)	46 (46)	0 (0)	0 (0)
	[学部等に所属しない教員組織] 乾燥地研究センター	5 (5)	6 (6)	1 (1)	1 (1)	13 (13)	0 (0)	0 (0)
	総合メディア基盤センター	2 (2)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
	入学センター	2 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
	大学教育総合センター	5 (5)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	0 (0)
	国際交流センター	1 (1)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
	生命機能研究支援センター	1 (1)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
	生涯教育総合センター	0 (0)	3 (3)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
	産学・地域連携推進機構	1 (1)	2 (2)	1 (1)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
	保健管理センター	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	計	221 (221)	186 (186)	95 (95)	204 (204)	706 (706)	5 (5)	332 (332)
	合 計	221 (221)	186 (186)	95 (95)	204 (204)	706 (706)	5 (5)	333 (333)
	教員以外の職員の概要	職 種	専 任		兼 任		計	
		事 務 職 員	260人 (260)		0人 (0)		260人 (260)	
		技 術 職 員	682 (682)		0 (0)		682 (682)	
		図 書 館 専 門 職 員	14 (14)		0 (0)		14 (14)	
そ の 他 の 職 員		13 (13)		0 (0)		13 (13)		
計		969 (969)		0 (0)		969 (969)		

校 地 等	区 分		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校 舎 敷 地		137,469㎡	0㎡	0㎡	137,469㎡			
	運 動 場 用 地		121,126㎡	0㎡	0㎡	121,126㎡			
	小 計		258,595㎡	0㎡	0㎡	258,595㎡			
	そ の 他		1,162,762㎡	0㎡	0㎡	1,162,762㎡			
合 計		1,421,357㎡	0㎡	0㎡	1,421,357㎡				
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計				
		233,152㎡ ( 233,152㎡)	0㎡ ( 0㎡)	0㎡ ( 0㎡)	233,152㎡ ( 233,152㎡)				
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設				
	72室	262室	618室	5室 (補助職員 0人)	1室 (補助職員 0人)				
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数					
		医学系研究科		18室					
図 書 ・ 設 備	新設学部等 の 名 称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資 料 点	機械・器 具 点	標本 点	医学部と共用 電子ジャーナル は大学全体での 共用	
	医学系研究科 保健学専攻	161,413 [90,946] (161,413 [90,946])	7,940 [ 6,590] ( 7,940 [ 6,590])	4,950 [ 4,950] ( 4,950 [ 4,950])	637 ( 637)	2,426 ( 2,426)	89 ( 89)		
	計	161,413 [90,946] (161,413 [90,946])	7,940 [ 6,590] ( 7,940 [ 6,590])	4,950 [ 4,950] ( 4,950 [ 4,950])	637 ( 637)	2,426 ( 2,426)	89 ( 89)		
図 書 館		面 積		閱 覧 座 席 数		収 納 可 能 冊 数			
		6,342㎡		490席		546,225冊			
体 育 館		面 積		体 育 館 以 外 の ス ポ ー ツ 施 設 の 概 要					
		2,254㎡		武道館, 陸上競技場, 野球場, テニスコート(19面), ラグビー兼サッカー場, プール, 弓道場					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開 設 年 度	完 成 年 度	区 分	開 設 前 年 度	開 設 年 度	完 成 年 度	国費による
		教員1人当たり研究費等	— 千円	— 千円	図書購入費	— 千円	— 千円	— 千円	
	共 同 研 究 費 等	— 千円	— 千円	設備購入費	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	学 生 1 人 当 り	第 1 年 次	第 2 年 次	第 3 年 次	第 4 年 次	第 5 年 次	第 6 年 次		
	納 付 金	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学 生 納 付 金 以 外 の 維 持 方 法 の 概 要		-----							
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		国立大学法人 鳥取大学						
	学 部 等 の 名 称	修 業 年 限	入 学 定 員	編 入 学 定 員	収 容 定 員	学 位 又 は 称 号	定 員 超 過 率	開 設 年 度	所 在 地
		年	人	年次 人	人		倍		
	教育地域科学部							平成11年	
	学校教育課程	4	—	—	—	—	—	平成11年	鳥取県鳥取市 湖山町南4-101
	人間文化課程	4	—	—	—	—	—	平成11年	
	地域政策課程	4	—	—	—	—	—	平成11年	
	地域科学課程	4	—	—	—	—	—	平成11年	
	地域学部							平成16年	
	地域政策学科	4	50	—	200	学士(地域学)	1.04	平成16年	鳥取県鳥取市 湖山町南4-101
地域教育学科	4	50	—	200	学士(地域学)	1.10	平成16年		
地域文化学科	4	45	—	180	学士(地域学)	1.06	平成16年		
地域環境学科	4	45	—	180	学士(地域学)	1.07	平成16年		
医学部							昭和24年		
医学科	6	75	5	470	学士(医学)	1.00	昭和24年	鳥取県米子市 西町86番地	
生命科学科	4	40	—	160	学士(生命科学)	1.05	平成2年		
保健学科	4	80	10	340	学士(看護学)	1.01	平成11年		
看護学専攻 検査技術科学専攻	4	40	5	170	学士(保健学)	1.04	平成11年		
工学部							昭和40年		
機械工学科	4	65	—	260	学士(工学)	1.04	平成7年	鳥取県鳥取市 湖山町南4-101	
知能情報工学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.06	平成7年		

	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地			
既	電気電子工学科	4	65	—	260	学士(工学)	1.10	平成7年				
	物質工学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.07	平成元年				
	生物応用工学科	4	40	—	160	学士(工学)	1.08	平成元年				
	土木工学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.03	平成元年				
	社会開発システム工学科 応用数理工学科	4 4	60 40	— —	240 160	学士(工学) 学士(工学)	1.06 1.11	平成元年 平成7年				
農学部								昭和24年				
生物資源環境学科	4	200	—	800	学士(農学)	1.06	平成11年	鳥取県鳥取市 湖山町南4-101				
獣医学科	6	35	—	210	学士(獣医学)	1.11	昭和24年					
	学部計		1,110	—	4,710		—					
設	教育学研究科 (修士課程)							平成6年				
	学校教育専攻	2	—	—	6	修士(教育学)	0.66	平成6年	鳥取県鳥取市 湖山町南4-101	平成19年度より 学生募集停止		
	障害児教育専攻	2	—	—	3	修士(教育学)	2.00	平成12年				
教科教育専攻	2	—	—	33	修士(教育学)	0.69	平成6年					
大	地域学研究科 (修士課程)							平成19年				
	地域創造専攻	2	15	—	15	修士(地域学)	1.13	平成19年	鳥取県鳥取市 湖山町南4-101			
	地域教育専攻	2	15	—	15	修士(教育学)	0.86	平成19年				
学	医学系研究科 (博士課程)							昭和33年				
	医学専攻	4	53	—	212	博士(医学)	0.55	平成16年	鳥取県米子市 西町86番地	平成16年度より 学生募集停止		
	(生理系専攻)	4	—	—	—	—	—	平成6年				
	(病理系専攻)	4	—	—	—	—	—	平成6年				
	(社会医学系専攻)	4	—	—	—	—	—	平成6年				
	(内科系専攻)	4	—	—	—	—	—	平成6年				
	(外科系専攻)	4	—	—	—	—	—	平成6年				
	(博士前期課程)											
	生命科学専攻	2	10	—	20	修士(生命科学)	1.70	平成6年				
	機能再生医科学専攻	2	11	—	22	修士(再生医科学)	1.58	平成15年				
	(博士後期課程)											
	生命科学専攻	3	5	—	15	博士(生命科学)	0.46	平成8年				
	機能再生医科学専攻	3	7	—	21	博士(再生医科学)	1.28	平成15年				
	(修士課程)											
保健学専攻	2	20	—	40	修士(保健学)	1.27	平成16年					
等	工学研究科 (博士前期課程)							昭和49年				
	機械工学専攻	2	21	—	42	修士(工学)	1.21	平成5年	鳥取県鳥取市 湖山町南4-101			
	知能情報工学専攻	2	24	—	48	修士(工学)	1.03	平成5年				
	電気電子工学専攻	2	21	—	42	修士(工学)	1.87	平成5年				
	物質工学専攻	2	18	—	36	修士(工学)	1.41	平成5年				
	生物応用工学専攻	2	12	—	24	修士(工学)	1.24	平成5年				
	土木工学専攻	2	21	—	42	修士(工学)	0.85	平成5年				
	社会開発システム工学専攻	2	18	—	36	修士(工学)	1.10	平成5年				
	応用数理工学専攻	2	18	—	36	修士(工学)	0.82	平成11年				
	(博士後期課程)											
	情報生産工学専攻	3	13	—	39	博士(工学)	0.43	平成6年				
	物質生産工学専攻	3	3	—	9	博士(工学)	0.77	平成6年				
	社会開発工学専攻	3	5	—	15	博士(工学)	0.60	平成6年				
	の	農学研究科 (修士課程)								昭和42年		
		生物生産科学専攻	2	26	—	52	修士(農学)	1.38		平成3年	鳥取県鳥取市 湖山町南4-101	
		農林環境科学専攻	2	27	—	54	修士(農学)	0.94		平成3年		
		農業経営情報科学専攻	2	8	—	16	修士(農学)	0.68		平成3年		
状		連合農学研究科 (博士課程)								平成元年		
	生物生産科学専攻	3	6	—	18	博士(農学)	0.99	平成元年	鳥取県鳥取市 湖山町南4-101	構成大学 鳥取大学 鳥根大学 山口大学		
	生物環境科学専攻	3	7	—	21	博士(農学)	2.09	平成元年				
	生物資源科学専攻	3	4	—	12	博士(農学)	1.58	平成元年				
研究科計		388	—	944		—						

附属施設の概要	<p>名 称 的 目 的</p> <p>所在地 開設年月</p>	<p>地域学部附属芸術文化センター 鳥取という地域を主なフィールドとしつつ、開かれた地域研究の一環として、地域の芸術文化の振興、その創造と発展、継承に役立つための研究と教育を行うことを目的とする。</p> <p>鳥取市湖山町南4丁目101番地 平成16年4月</p>	規模等（土地面積・建物面積）は別表とおり
	<p>名 称 的 目 的</p> <p>所在地 開設年月</p>	<p>医学部附属脳幹性疾患研究施設 原因不明で異常脳波を出す疾患について、臨床と基礎の講座が直結した研究施設として脳神経疾患の予防、治療を目的とする。</p> <p>米子市西町36番地の1 昭和37年4月</p>	
	<p>名 称 的 目 的</p> <p>所在地 開設年月</p>	<p>医学部附属病院 医学部附属施設として、患者を診療し、医学の教育と研究を行うことを目的とする。</p> <p>米子市西町36番地の1 昭和26年3月</p>	
	<p>名 称 的 目 的</p> <p>所在地 開設年月</p>	<p>ものづくり教育実践センター 工学部附属の教育施設として、ものづくり教育を通じて科学技術と、ものづくりの重要性を啓発し、創造的人材の育成と併せて研究に寄与することを目的とする。</p> <p>鳥取市湖山町南4丁目101番地 平成16年4月</p>	
	<p>名 称 的 目 的</p> <p>所在地 開設年月</p>	<p>農学部附属動物病院 一般市民に対して動物診療を提供すると共に、獣医学の臨床教育および研究に資することを目的とする。</p> <p>鳥取市湖山町南4丁目101番地 昭和28年8月（附属家畜病院、平成16年4月改称）</p>	
	<p>名 称 的 目 的</p> <p>所在地 開設年月</p>	<p>農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター 自然生態系の維持、植物の成長促進やストレス耐性の付与、環境汚染物質の浄化など多様な機能を持つ菌類きのこに関し、高レベルで特色のある体系的な教育と研究を進め、優秀な人材の育成と、産業の活性化や新産業の創出を目的とする。</p> <p>鳥取市湖山町南4丁目101番地 平成17年4月</p>	
	<p>名 称 的 目 的</p> <p>所在地 開設年月</p>	<p>農学部附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター 鳥インフルエンザなど社会的にインパクトの大きな鳥由来人獣共通感染症における防疫対策を確立し、国家および地方防疫に貢献することを目的とする。</p> <p>鳥取市湖山町南4丁目101番地 平成17年4月</p>	
	<p>名 称 的 目 的</p> <p>所在地 開設年月</p>	<p>農学部附属フィールドサイエンスセンター 農地や森林などのフィールドを活用した研究・教育・地域貢献を實踐すること、さらに農学部における総合的なフィールド科学の情報発信基地としての機能を担うことを目的とする。</p> <p>湖山農場：鳥取市湖山町南4丁目101番地 大塚農場：鳥取市大塚3-1 教育研究林湖山の森；鳥取市湖山町西4丁目110番地 " 三朝の森；鳥取県東伯郡三朝町大谷 " 伯耆の森；鳥取県西伯郡伯耆町金屋谷 " 蒜山の森；岡山県真庭市蒜山上徳山</p> <p>昭和24年5月（附属農場、附属演習林を平成17年4月に統合）</p>	
	<p>名 称 的 目 的</p> <p>所在地 開設年月</p>	<p>附属図書館 教育・研究や学習に必要な図書館資料を収集・整理して利用に供するとともに、電子ジャーナルの導入、二次文献情報データベースの整理、情報リテラシ教育への参画などを通じて学内の学術情報の流通基盤として機能し、鳥取大学における教育・研究活動を支援することを目的とする。</p> <p>鳥取市湖山町南4丁目101番地 附属図書館医学部分館；米子市西町86番地 昭和24年5月</p>	
	<p>名 称 的 目 的</p> <p>所在地 開設年月</p>	<p>附属小学校 初等普通教育を施し、併せて鳥取大学の教育計画に従って、教育の理論及び實際に関する研究並びにその実証を行い、兼ねて鳥取大学学生の教育実習等を行うことを目的とする。</p> <p>鳥取市湖山町南4丁目101番地 昭和26年4月（改称、平成16年4月大学附属に転換）</p>	

名目	附属中学校
称	中等普通教育を施し、併せて鳥取大学の教育計画に従って、教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行い、兼ねて鳥取大学学生の教育実習等を行うことを目的とする。
所在地	鳥取市湖山町南4丁目101番地
開設年月	昭和26年4月（改称、平成16年4月大学附属に転換）
名目	附属特別支援学校
称	知的障害者及び軽度発達障害者に対して小学校、中学校又は高等学校に準ずる教育を施し、併せて特別な教育的ニーズに応じた支援を行い、また、鳥取大学の教育計画に従って、教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行い、兼ねて鳥取大学学生の教育実習等を行うことを目的とする。
所在地	鳥取市湖山町西2丁目149番地
開設年月	昭和53年4月（附属養護学校を平成16年4月大学附属に転換、平成19年4月改称）
名目	附属幼稚園
称	幼児を保育し、適当な環境を与えて、その心身の発達を助長するとともに、鳥取大学の教育計画に従って、教育の理論及び実際に関する研究並びにその実証を行い、兼ねて鳥取大学学生の教育実習等を行うことを目的とする。
所在地	鳥取市湖山町北2丁目465番地
開設年月	昭和42年6月（平成16年4月大学附属に転換）
名目	乾燥地研究センター
称	全国共同利用施設として、乾燥地の砂漠化防止及び開発利用に関する基礎的研究を行い、かつ、国立大学の教員その他の者で、この分野の研究に従事するものの利用に供することを目的とする。
所在地	鳥取市浜坂1390番地
開設年月	平成2年6月（農学部附属砂丘利用研究施設を転換し、設置）
名目	総合メディア基盤センター
称	本学の学内共同教育研究施設として、本学の情報ネットワーク及びセンターの電子計算機システムを管理運用し、本学における研究、教育その他の業務のための共同利用に供するとともに、情報処理の円滑かつ効率的な推進を図ることを目的とする。
所在地	鳥取市湖山町南4丁目101番地
開設年月	平成11年4月（総合情報処理センターを平成16年4月改組）
名目	入学センター
称	本学の学内共同教育研究施設として、全学的な立場による、入学選抜制度の改善及び入学選抜の円滑な実施を図るとともに、本学への入学希望者に対する総合的な広報活動等及びアドミッションポリシーに対応した学生募集を行うことを目的とする。
所在地	鳥取市湖山町南4丁目101番地
開設年月	平成14年4月（アドミッションセンターを平成19年6月改組）
名目	大学教育総合センター
称	本学の学内共同教育研究施設として、全学共通教育を円滑に実施するため並びに大学教育改善のための企画、研究及び開発を行うため、本学における教育の中心的な役割を担い、もってその教育の進展に資することを目的とする。
所在地	鳥取市湖山町南4丁目101番地
開設年月	平成7年4月（大学教育センターを平成14年4月改称）
名目	国際交流センター
称	本学の学内共同教育研究施設として、本学の国際化について企画・立案するとともに、外国人留学生及び海外留学を希望する学生に対し、必要な教育及び指導助言等を行うことにより、本学における国際交流の推進に寄与することを目的とする。
所在地	鳥取市湖山町南4丁目101番地
開設年月	平成15年4月（留学生センターを平成16年4月改称）
名目	生命機能研究支援センター
称	本学の学内共同教育研究施設として、ライフサイエンス、環境科学、ナノテクノロジー・材料等の学際的・複合的な研究領域に対応する教育研究の総合的推進を図ることを目的とする。
所在地	米子市西町86番地
開設年月	平成15年4月



<p>名 称 目 的</p> <p>生涯教育総合センター 本学の学内共同教育研究施設として、生涯教育に関する教育、研修及びこれらに関する調査研究を行い、もって地域の教育、研修の充実及び普及に寄与することを目的とする。</p> <p>所 在 地 開 設 年 月</p> <p>鳥取市湖山町南4丁目101番地 平成16年4月</p>	
<p>名 称 目 的</p> <p>保健管理センター 本学における学生及び職員の保健管理に関する専門的業務を行い、健康の保持増進を図ることを目的とする。</p> <p>所 在 地 開 設 年 月</p> <p>鳥取市湖山町南4丁目101番地 昭和44年4月</p>	
<p>名 称 目 的</p> <p>産学・地域連携推進機構 本学における産官学連携を中心とした地域連携業務を機動的に展開するとともに、研究成果を社会に還元することを目的とする。</p> <p>所 在 地 開 設 年 月</p> <p>鳥取市湖山町南4丁目101番地 平成19年4月（地域共同研究センター、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー、知的財産センターを改組し、設置）</p>	

(別表)

## 附属施設の規模等

〔鳥取地区〕

(単位:㎡)

名 称	土 地	建 物	
		建面積	延面積
保健管理センター	508,118 (※1)	343	343
附属図書館		1,883	4,540
地域学部 附属芸術文化センターを含む		2,970	11,241
工学部 ものづくり教育実践センターを含む		10,294	33,415
農学部 附属動物病院, 附属菌類きこ遺伝資源研究センター, 附属鳥由来人獣共通感染症疫学研究センター, 附属フィールドサイエンスセンター(湖山農場)を含む		11,961	24,590
総合メディア基盤センター		424	840
生涯教育総合センター		274	530
産学・地域連携推進機構		1,082	2,764
共通教育棟 アドミッションセンター, 大学教育総合センター, 国際交流センターを含む		2,839	11,336
附属小学校, 附属中学校		5,421	12,534
附属特別支援学校	18,587	2,804	3,487
附属幼稚園	4,297	1,073	1,073
農学部 附属フィールドサイエンスセンター(教育研究林湖山の森)	(※2) 46,693	0	0
乾燥地研究センター	978,344	7,340	8,940
農学部 附属フィールドサイエンスセンター(大塚農場)	56,083	413	413

〔米子地区〕

区 分	土 地	建 物	
		建面積	延面積
医学部(一) 附属図書館医学部分館を含む	36,103 (※3)	7,459	21,842
附属病院 附属脳幹性疾患研究施設を含む	52,928 (※4)	23,458	93,429
医学部(二) 生命機能研究支援センターを含む	45,113	7,103	26,031

〔その他の地区〕

区 分	土 地	建 物	
		建面積	延面積
農学部 附属フィールドサイエンスセンター(教育研究林三朝の森)	1,865,902	0	0
附属フィールドサイエンスセンター(教育研究林伯耆の森)	332,882	0	0
附属フィールドサイエンスセンター(教育研究林蒜山の森)	5,732,636	1,183	1,318

※1 本部管理棟その他, 大学院連合農学研究科, 鳥取地区放射性同位元素等共同利用施設, 職員宿舎を含む。

※2 国際交流会館, 職員宿舎を含む。

※3 職員宿舎を含む。

※4 看護師宿舎を含む。

様式第2号 (その2)

教 育 課 程 等 の 概 要														
(医学系研究科保健学専攻(D))														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	統合保健学研究方法特論	1	2			○			3	2				
	小計 ( 1 科目)	—	2	0	0	—			3	2	0	0	0	
専門科目	統合保健学特別研究	1・2・3	4					○	13	2				
	成育保健学特論	1		2		○			3	1				
	成育保健学演習	1		2			○		3	1				
	成人・高齢者保健学特論	1		2		○			5					
	成人・高齢者保健学演習	1		2			○		3	1				
	地域保健学特論	1		2		○			2					
	地域保健学演習	1		2			○		2					
	先進保健学特論	1		2		○			3		1			
	先進保健学演習	1		2			○		3		1			
小計 ( 9 科目)	—	4	16	0	—			13	2	1	0	0		
合計 ( 10 科目)		—	6	16	0	—			13	4	1	0	0	
学位又は称号	博士(保健学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p>修了要件</p> <p>1. 本研究科に3年以上在学し、所定の授業科目12単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、博士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、大学院設置基準第17条に基づき、優れた業績を上げた者と研究科委員会において認めた場合には、2年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>2. 学位論文の審査及び最終試験は、研究科委員会で行う。</p>	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	15週
<p>履修方法</p> <p>共通及び専門科目で、合計12単位以上を履修させる。</p> <p>1. 共通科目として、「統合保健学研究方法特論」2単位を必修とする。</p> <p>2. 専門科目として、「統合保健学特別研究」4単位を含め、10単位以上履修させる。</p> <p>3. 専門科目の2単位については、大学院医学系研究科生命科学専攻博士後期課程の専門科目である、「予防医学特論」、「加齢医学特論」、「遺伝子医学特論」、「生体防御学特論」、「シグナル伝達学特論」、「分子腫瘍学特論」、「神経分化学特論」、「医療工学特論」から履修することができる。</p>	1時限の授業時間	90分

様式第2号(その2)

教育課程等の概要														
(医学系研究科保健学専攻(M))														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
共通科目	医療倫理学特論	1	2			○			1	1				
	看護管理学特論	1		2		○			2					
	看護学研究方法特論	1		2		○			2					
	ストレス医学特論	1		2		○			1	1				
	生活習慣病医学特論	1		2		○			1					
	腫瘍医学特論	1		2		○			2					
	医療情報処理学特論	1		2		○			1					
	リハビリテーション学特論	1		2		○			1					
	地域高齢者医学特論	1		2		○			1					
	小計(9科目)	—	2	16	0		—		10	2	0	0	0	
専門科目	高齢者・リハビリテーション看護学特論	1		2		○			1	1				
	高齢者・リハビリテーション看護学演習	1		2			○			1				
	成人看護学特論	1		2		○			1	1				
	環境看護学特論	1		2		○			2		1			
	環境看護学演習	1		2			○		1					
	高齢者・リハビリテーション看護学特別研究	2		10				○	4	2				
	成育看護学特論	1		2		○			3	1				
	成育看護学演習	1		2			○		1					
	地域保健看護学特論	1		2		○			1					
	地域保健看護学演習	1		2			○		1					
	成育看護学特別研究	2		10				○	4	1		1		
	神経病態・遺伝子疾患学特論	1		2		○			2					
	神経病態・遺伝子疾患学演習	1		2			○		2			2		
	病態細胞・血液学特論	1		2		○			3	1				
	病態細胞・血液学演習	1		2			○		2			2		
	病態制御学特論	1		2		○			1	1				
	病態制御学演習	1		2			○		1	1				
病態解析学特別研究	2		10				○	5	2					
生体機能・情報解析学特論	1		2		○			2	2					
生体機能・情報解析学演習	1		2			○		2	2		1			

様式第2号 (その2)

教育課程等の概要														
(医学系研究科保健学専攻 (M))														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門科 目	環境科学特論	1		2		○			2	2				
	環境科学演習	1		2			○		2	2		1		
	生体情報解析学特別研究	2		10				○	4	4				
	小計 (23科目)	—	0	78	0			—	20	11	1	7	0	
合計 (32科目)			2	94	0				20	11	1	7	0	
学位又は称号		修士(保健学)		学位又は学科の分野				保健衛生学関係						
卒業要件及び履修方法								授業期間等						
修了要件 1. 本研究科に2年以上在学し、所定の授業科目30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、大学院設置基準第16条に基づき、優れた業績を上げた者と研究科委員会において認めた場合には、1年以上在学すれば足りるものとする。  2. 学位論文の審査及び最終試験は、研究科委員会で行う。  3. 専門教育科目については、6単位を限度として、本学大学院医学系研究科生命科学専攻博士前期課程の専門科目を履修し、単位修得とすることができる。								1学年の学期区分			2期			
								1学期の授業期間			15週			
								1時限の授業時間			90分			

様式第2号 (その2)

教育課程等の概要															
(保健学科看護学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全 学 共 通 科 目	大学入門ゼミ	1	2			○									
	情報リテラシ	1	2			○									
	教養基礎数学	1		2		○									
	教養基礎物理学	1		2		○									
	教養基礎化学	1		2		○									
	教養基礎生物学 (動物)	1		2		○									
	教養基礎生物学 (植物)	1		2		○									
	小計 (7科目)	—	4	0	10	—									
		発達心理学	1		2		○								
		シュペール 仏語 I	1		2		○								
		シュペール 仏語 II	1		2		○								
		哲学の冒険 (SF映画で学ぶ哲学入門)	1		2		○								
		言語哲学入門	1		2		○								
		文化人類学	1		2		○								
		宗教学 I	1		2		○								
		日本語構造論	1		2		○								
		教育学	1		2		○								
		合唱の楽しみ	1		2		○								
		書いて見る文字の歴史	1		2		○								
		アメリカ手話入門 II	1		2		○								
		韓国の文化	1		2		○								
		名著講読	1		2		○								
		映像で学ぶアメリカの文化と人々	1		2		○								
		スポーツと文化	1		2		○								
		映画で学ぶユダヤ人の物語	1		2		○								
		英詩を読む I	1		2		○								
		女子学生のためのサッカー入門	1		2		○								
		デザイン入門	1		2		○								
		舞台芸術を楽しむ	1		2		○								
		教育社会学	1		2		○								
		日本国憲法	1		2		○								
		経済学	1		2		○								
		くらしの経済・法律講座	1		2		○								
	民法	1		2		○									
	教育と法	1		2		○									
	現代都市の諸問題	1		2		○									
	公法入門	1		2		○									
	裁判員制度入門	1		2		○									
	日本経済の構造	1		2		○									
	平和学—構造的暴力と人権—	1		2		○									
	国際経済史 I	1		2		○									
	西洋政治史 I	1		2		○									
	西洋政治史 II	1		2		○									
	数字にみる日本の経済社会	1		2		○									
	こころのコミュニケーション	1		2		○									
	地球市民ワークショップ	1		2		○									

様式第2号(その2)

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健学科看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全 学 共 通 科 目	教育学	1		2		○									
	経営システムと戦略	1		2		○									
	現代社会と法	1		2		○									
	社会学入門	1		2		○									
	情報倫理	1		2		○									
	物理学	1		2		○									
	化学	1		2		○									
	数理ファイナンスの基礎	1		2		○									
	数学の楽しみ	1		2		○									
	初等整数論と不等式	1		2		○									
	DNAから見た生物の進化	1		2		○									
	微生物から見た生物界	1		2		○									
	生体における恒常性の維持	1		2		○									
	植物改造のバイオテクノロジー	1		2		○									
	心身症とパーソナリティ	1		2		○									
	からだ気づき入門	1		2		○									
	ヘルスプロモーション学	1		2		○									
	ウエルネスとシェイプアップ	1		2		○									
	放射線科学	1		2		○									
	健康と疾病	1		2		○									
	生きる-「食・バイオ・環境」の科学	1		2		○									
	医学と生命科学	1		2		○									
	メカライフの世界(設計生産)	1		2		○									
	わかる電気電子のトピックス	1		2		○									
	ハイテク未来とマテリアルイェンス	1		2		○									
	社会を動かすシステム	1		2		○									
	情報技術と基礎科学	1		2		○									
	先端テクノロジーと数理	1		2		○									
	環境社会学	1		2		○									
	生存基礎としての農業	1		2		○									
	水と土と緑	1		2		○									
	水土の知を学ぶ	1		2		○									
	森の生態学入門	1		2		○									
	自然災害Ⅰ-地震災害と対策-	1		2		○									
	沙漠・サイエンス	1		2		○									
	キャリアデザイン入門	1		2		○									
	キャリアデザイン実践	1		2		○									
	掃除道入門(人間力養成講座Ⅰ)	1		2		○									
	小計(76科目)		-	0	152	0	-								
	実 践 科 目	健康スポーツ科学実技(前・指定)	1		1			○							
		健康スポーツ科学実技(後・指定)	1		1			○							
		健康スポーツ科学実技(前・全学)	1		1			○							
		健康スポーツ科学実技(後・全学)	1		1			○							
		健康スポーツ科学実技(集・前)	1		1			○							
		健康スポーツ科学実技(集・後)	1		1			○							
		物理学実験演習	1			2			○						



様式第2号 (その2)

教育課程等の概要																
(保健学科看護学専攻)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全学 共通 科目	実践 科目	化学実験演習	1		2			○								
		生物学実験演習	1		2			○								
		コミュニケーション英語ⅠA	1	1				○								
		コミュニケーション英語ⅡA	1	1				○								
		コミュニケーション英語ⅠB	1	1				○								
		コミュニケーション英語ⅡB	1	1				○								
		英語Ⅰ(前)	2	1				○								
		英語Ⅱ(後)	2	1				○								
		ドイツ語Ⅰ(前)	1		1			○								
		ドイツ語Ⅰ(後)	1		1			○								
		フランス語Ⅰ(前)	1		1			○								
		フランス語Ⅰ(後)	1		1			○								
		中国語Ⅰ(前)	1		1			○								
		中国語Ⅰ(後)	1		1			○								
小計(21科目)		—	6	12	6	—										
専 門 支 持 教 育 目 的	社会との 関わり	生命倫理	1	2			○									
		カウンセリング	2		1		○			1						
		環境と有機化学	1		1		○				1					
		健康と衛生	2	2			○			1	1					
		国際保健医療論	2	1			○			2	1					
		コミュニケーション法	2		1		○			1						
		死生学	4		1		○				1					
		初期体験・ボランティア	1	1					○							
		ストレスと行動	1		1		○			1						
		地域保健福祉論	3	1			○			2		1				
		保健医療概論	1	2			○			5						
		保健統計学	1	2			○			1			1			
		社会福祉原論	1		2		○			1						
		医療英語	3	2				○				1				
	保健行政論	3	1			○			1		1					
	小計(15科目)		—	14	7	0	—			8	3	3	1	0		
	生命のしくみ	栄養と代謝	2	2			○			1	1					
		健康と生体情報	1	2			○			1						
		細胞と情報伝達	2		1		○			2	1		1			
		人類遺伝学	3	2			○			6						
		生物と環境	2		1		○			2	1					
		生命維持と免疫	2		1		○			3	1					
		電磁気と生命	1		1		○			1	1					
人間発達と健康論		1	2			○			2	1	1					
脳のはたらき		1	1			○			2	1		1				
人体の構造と機能		1	2			○			1							
生理機能の検査法	2	2			○			1								
小計(11科目)		—	13	4	0	—			8	3	1	1	0			
病 暮 ら し	がんのメカニズムと治療	4		2		○			5	2	1					
	くすりと作用	3	2			○			3	1						
	心の病	2		1		○			1							

様式第2号 (その2)

教 育 課 程 等 の 概 要

(保健学科看護学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門支持教育科目	疾病論	2	4			○			2						
	周産期医学	2		1		○			4						
	チーム医療論	4		1		○			2	1	1				
	病気と微生物	2	2			○			3	1					
	病気と病理	2	2			○			2						
	リハビリテーション概論	1		1		○			2		1				
	環日本海・アジア医療事情	2		1		○			2		1				
	老年医学	3		1		○			2		2				
	小計 (11科目)	—	10	8	0	—			12	2	3	0	0		
	専門看護学	看護学概論	1	2			○			1	1				
看護倫理		4	1			○			1						
看護過程論		2	1			○				1					
看護情報学		3	1			○			2	1	1				
看護方法Ⅰ		2	2				○		1	2	1				
看護方法Ⅱ		2	2				○		1	1	1	3			
基礎看護学実習Ⅰ		2	1					○	1	2	1	3			
基礎看護学実習Ⅱ		2	2					○	1	1	1	3			
看護管理		3	1			○			1						
小計 (9科目)		—	13	0	0	—			2	2	2	3	0		
成人・老人看護学	成人看護学	2	2			○				1					
	リハビリテーション看護学	2	2			○				1					
	救急看護演習	2	1				○			2					
	急性期看護演習	2	1				○		1						
	慢性期看護演習	2	1				○			1					
	終末期看護演習	3	1				○			1					
	リハビリテーション看護演習	3	1				○			1					
	成人・リハビリテーション看護実習	4	6					○							
	老年看護学	2	2			○					1				
	老年看護演習	2	1				○				1				
老年看護学実習	4	2					○	1	3	1	2				
小計 (11科目)	—	20	0	0	—			2	3	1	2	0			
母性・小児看護学	小児家族看護学	2	2			○			1	1					
	小児家族看護演習	3	1				○			1					
	小児家族看護学実習	4	3					○							
	母性家族看護学	2	2			○			1						
	母性家族看護演習	2	1				○		1						
	母性家族看護学実習	4	3					○							
	環境母子保健	4	1			○			1	1					
	家族看護演習	3	1				○		1		1				
小計 (8科目)	—	14	0	0	—			2	1	1	0	0			
地域・精神看護学	地域看護学	2	2			○			1		1	1			
	地域看護演習	3	2				○		1		1	1			
	地域看護学実習	4	3					○							
	在宅看護学	2	2			○			1		1				
	在宅看護演習	3	1				○		1		1				
在宅看護学実習	4	2					○								

様式第2号 (その2)

教育課程等の概要																
(保健学科看護学専攻)																
科目区分		授業科目の名称		配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
					必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専 門 科 目	専 門	地 域 精 神 看 護 学	精神看護学	2	2			○			1		1			
			精神看護演習	2	1				○		1		1			
			精神看護学実習	4	2					○				1		
			小計(9科目)	—	17	0	0	—	—	—	3	0	3	3	0	
	門 門	共 通	看護学ゼミナール	3	2			○			5	6	5			
			看護研究方法論	3	1			○			5					
			看護学課題研究	4	2			○								
			小計(3科目)	—	5	0	0	—	—	—	10	6	5	0	0	
	科 科	選 択 科 目	学校看護	4		1		○								
			産業看護	4		1		○								
			過疎地看護	3		1		○			1		1	1		
			国際看護演習	4		1			○							
			助産学原論	3		2		○			1					
			助産方法演習Ⅰ	3		1			○		1					
助産方法演習Ⅱ			3		1			○		2						
助産業務管理論			4		1		○			1						
助産業務管理論実習	4		1				○									
助産学実習	4		5				○									
小計(10科目)	—	0	15	0	—	—	—	—	2	0	1	1	0			
合計(191科目)					116	198	16				19	9	7	8	0	
学位又は称号		学士(看護学)			学位又は学科の分野				保健衛生学関係							
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
<b>卒業要件</b> 本学部に4年以上在学し、所定の修得単位数136単位以上を修得すること。  <b>履修方法</b> 1. 全学共通科目23単位以上修得すること。 (大学入門科目4単位以上、主題科目10単位以上、実践科目9単位以上を含めて23単位以上履修する)  2. 専門科目113単位以上履修すること。 (専門支持教育科目42単位以上、専門科目71単位以上履修する)								1学年の学期区分				2学期				
								1学期の授業期間				15週				
								1時限の授業時間				90分				

教育課程等の概要														
(保健学科検査技術科学専攻)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
大学 入門 科目	大学入門ゼミ	1	2			○								
	情報リテラシ	1	2			○								
	教養基礎数学	1		2	○									
	教養基礎物理学	1		2	○									
	教養基礎化学	1		2	○									
	教養基礎生物学 (動物)	1		2	○									
	教養基礎生物学 (植物)	1		2	○									
小計 (7科目)	—	4	0	10	—									
全 学 共 通 科 目	発達心理学	1		2	○									
	シュペール 仏語 I	1		2	○									
	シュペール 仏語 II	1		2	○									
	哲学の冒険 (SF映画で学ぶ哲学入門)	1		2	○									
	言語哲学入門	1		2	○									
	文化人類学	1		2	○									
	宗教学 I	1		2	○									
	日本語構造論	1		2	○									
	教育学	1		2	○									
	合唱のたのしみ	1		2	○									
	書いて見る文字の歴史	1		2	○									
	アメリカ手話入門 II	1		2	○									
	韓国の文化	1		2	○									
	名著講読	1		2	○									
	映像で学ぶアメリカの文化と人々	1		2	○									
	スポーツと文化	1		2	○									
	映画で学ぶユダヤ人の物語	1		2	○									
	英詩を読む I	1		2	○									
	女子学生のためのサッカー入門	1		2	○									
	デザイン入門	1		2	○									
	舞台芸術を楽しむ	1		2	○									
	教育社会学	1		2	○									
	日本国憲法	1		2	○									
	経済学	1		2	○									
	くらしの経済・法律講座	1		2	○									
	民法	1		2	○									
	教育と法	1		2	○									
	現代都市の諸問題	1		2	○									
	公法入門	1		2	○									
	裁判員制度入門	1		2	○									
	日本経済の構造	1		2	○									
	平和学—構造的暴力と人権—	1		2	○									
	国際経済史 I	1		2	○									
西洋政治史 I	1		2	○										
西洋政治史 II	1		2	○										
数字にみる日本の経済社会	1		2	○										
こころのコミュニケーション	1		2	○										

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(保健学科検査技術科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
全 学 共 通 科 目	地球市民ワークショップ	1		2		○										
	教育学	1		2		○										
	経営システムと戦略	1		2		○										
	現代社会と法	1		2		○										
	社会学入門	1		2		○										
	情報倫理	1		2		○										
	物理学	1		2		○										
	化学	1		2		○										
	数理ファイナンスの基礎	1		2		○										
	数学の楽しみ	1		2		○										
	初等整数論と不等式	1		2		○										
	DNAから見た生物の進化	1		2		○										
	微生物から見た生物界	1		2		○										
	生体における恒常性の維持	1		2		○										
	植物改造のバイオテクノロジー	1		2		○										
	心身症とパーソナリティ	1		2		○										
	からだ気づき入門	1		2		○										
	ヘルスプロモーション学	1		2		○										
	ウェルネスとシェイプアップ	1		2		○										
	放射線科学	1		2		○										
	健康と疾病	1		2		○										
	生きる-「食・バイオ・環境」の科学	1		2		○										
	医学と生命科学	1		2		○										
	メカライフの世界 (設計生産)	1		2		○										
	わかる電気電子のトピックス	1		2		○										
	ハイテク未来とマテリアルサイエンス	1		2		○										
	社会を動かすシステム	1		2		○										
	情報技術と基礎科学	1		2		○										
	先端テクノロジーと数理	1		2		○										
	環境社会学	1		2		○										
	生存基礎としての農業	1		2		○										
	水と土と緑	1		2		○										
	水土の知を学ぶ	1		2		○										
	森の生態学入門	1		2		○										
	自然災害Ⅰ-地震災害と対策-	1		2		○										
	沙漠・サイエンス	1		2		○										
	キャリアデザイン入門	1		2		○										
	キャリアデザイン実践	1		2		○										
	掃除道入門(人間力養成講座Ⅰ)	1		2		○										
	小計 (76科目)		—	0	152	0			—							
	目	実 践 科 目	健康スポーツ科学実技(前・指定)	1		1				○						
			健康スポーツ科学実技(後・指定)	1		1				○						
			健康スポーツ科学実技(前・全学)	1		1				○						
			健康スポーツ科学実技(後・全学)	1		1				○						
			健康スポーツ科学実技(集・前)	1		1				○						
			健康スポーツ科学実技(集・後)	1		1				○						
物理学実験演習			1		2					○						

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(保健学科検査技術科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学 共通 科目	化学実験演習	1		2				○							
	生物学実験演習	1		2				○							
	コミュニケーション英語ⅠA	1	1					○							
	コミュニケーション英語ⅡA	1	1					○							
	コミュニケーション英語ⅠB	1	1					○							
	コミュニケーション英語ⅡB	1	1					○							
	英語Ⅰ	2	1					○							
	英語Ⅱ	2	1					○							
	ドイツ語Ⅰ(前)	1		1				○							
	ドイツ語Ⅰ(後)	1		1				○							
	フランス語Ⅰ(前)	1		1				○							
	フランス語Ⅰ(後)	1		1				○							
	中国語Ⅰ(前)	1		1				○							
	中国語Ⅰ(後)	1		1				○							
	小計(21科目)	—	6	18	0			—							
専 門 支 持 科 目	カウンセリング	2		1				○			1				
	環境と有機化学	1		1				○				1			
	健康と衛生	2	2					○			1	1			
	国際保健医療論	2		1				○			2	1			
	コミュニケーション法	2		1				○			1				
	死生学	3		1				○				1			
	初期体験・ボランティア	1	1					○							
	ストレスと行動	1		1				○				1			
	生命倫理	1	2					○							
	地域保健福祉論	3		1				○			2	1			
	保健医療概論	1	2					○			5				
	保健行政論	3	1					○			1				
	保健統計学	1	2					○			1				
	医療英語	3	2					○							
	保健行政論	3	1					○							
小計(15科目)	—	13	7	0			—			11	3	1	0	0	
生命のしくみ	栄養と代謝	2	2					○			1	1			
	健康と生体情報	1	2					○			1				
	細胞と情報伝達	2		1				○			2	1			
	人類遺伝学	3		2				○			4				
	生物と環境	2		1				○			2	1			
	生命維持と免疫	2		1				○			3	1			
	電磁気と生命	1		1				○				1			
	人間発達と健康論	1		2				○			2	1	1		
	脳のはたらき	1	1					○			2	1		1	
	人体の構造と機能	1	2					○			1				
小計(10科目)	—	7	8	0			—			7	3	1	1	0	
病 気 と 暮 ら し	がんのメカニズムと治療	3		2				○			5	2	1		
	くすりと作用	3	2					○			3	1			
	心の病	2		1				○			1				
	疾病論	2	4					○			2				
	周産期医学	2		1				○			4				

# 教 育 課 程 等 の 概 要

(保健学科検査技術科学専攻)

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
専 門 科 目	専 門 支 持 教 育 科 目	チーム医療論	4		1		○			2	1	1			
		老年医学	3		1		○								
		病気と微生物	2	2			○			3	1				
		病気と病理	2	2			○			2					
		リハビリテーション概論	1		1		○			2		1			
		環日本海・アジア医療事情	2		1		○			2		1			
		小計(11科目)	—	10	8	0				13	2	2	0	0	
	生 体 制 御 学	環境衛生学	3	2			○			1					
		機器管理学演習	2	1				○			2				
		医用工学	2	1			○				1				
		医用工学実習	2	1					○		1				
		医療情報システム学	3	1			○			2					
		医療データ解析学	3	1			○			1	1				
		環境衛生学実習01	3	1					○	1					
		管理システム学概論	2	1			○			1					
		検査機器論	2	2			○				2				
		情報科学概論	2	2			○			1					
		人体組織学	2	1			○			1					
		人体組織学実習	2	1					○	1					
		生理情報検査学	2	1			○			1					
		生理情報検査学実習	2	1					○	1					
		分析検査学	2	1			○				1				
		分析検査学実習	2	1					○		1				
	小計(16科目)	—	19	0	0				4	3	0	0	0		
	病 態 検 査 学	検査学概論	2	1			○			2					
		生命工学概論	3	2			○			1	1		1		
		基礎免疫・輸血学	2	1			○			1					
		検体検査学	2	1			○				2				
		検体検査学実習	2	2					○		2		2		
		微生物検査学	2	1			○			1					
		微生物検査学実習	2	1					○	1			1		
		病原寄生虫学演習	3	1				○		1			1		
		病原体検査学	3	2			○			1			1		
病原体検査学実習Ⅰ		3	1					○	1			1			
病原体検査学実習Ⅱ		4	1					○							
病態血液学01		3	2			○			2	1					
病態血液学実習Ⅰ		3	1					○	1	1					
病態血液学実習Ⅱ		4	1					○							
病態生理情報検査学		3	4			○			1	2		3			
病態生理情報検査学実習Ⅰ		3	2					○	1	2		2			
病態生理情報検査学実習Ⅱ		4	2					○							
病態分析検査学		3	2			○			1	1					
病態分析検査学実習Ⅰ		3	2					○	1	1		1			
病態分析検査学実習Ⅱ		4	2					○							
病態免疫血清検査学	3	2			○				1						
病態免疫血清検査学実習Ⅰ	3	2					○	1	1						
病態免疫血清検査学実習Ⅱ	4	1					○								

## 教 育 課 程 等 の 概 要

(保健学科検査技術科学専攻)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
専 門 科 目	病 態 検 査 学	病理検査学	2	2		○			1				1		
		病理検査学実習	2	1				○	1				1		
		病理組織細胞学	3	2		○									
		病理組織細胞学実習 I	3	1				○					1		
		病理組織細胞学実習 II	4	2				○							
		放射性同位元素検査技術学	3	1		○									
		放射性同位元素検査技術学実習	3	1				○							
		臨床病理学概論	3	1		○			1						
		小計 (31科目)	—	48	0	0	—			5	3	0	4	0	
	共 通	課題研究	4	4				○							
		小計 (1科目)	—	4	0	0	—								
	選 択 科 目	実験動物学	3		1		○								
		遺伝子診断学	4		1		○		2				1		
		医療管理学	4		1		○		1						
		画像診断学	4		1		○		1						
		計算生物学入門	4		1		○		1				1		
		情報科学演習	2		1		○		1				1		
		電子顕微鏡診断学	4		1		○		1						
		廃棄物処理論	4		1		○			1					
予防検査学		4		1		○		1		1					
小計 (9科目)	—	0	9	0	—			6	1	0	2	0			
合計 (197科目)				111	202	10			20	9	4	4	0		
学位又は称号	学士(保健学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係									
卒業要件及び履方法						授業期間等									
<b>卒業要件</b> 本学部に4年以上在学し、所定の修得単位数135単位以上を修得すること。  <b>履修方法</b> 1. 全学共通科目27単位以上修得すること。 (大学入門科目4単位以上、主題科目12単位以上、実践科目11単位以上を含めて27単位以上履修する)  2. 専門科目108単位以上履修すること。 (専門支持教育科目33単位以上、専門科目75単位以上履修する)						1学年の学期区分			2学期						
						1学期の授業期間			15週						
						1時限の授業時間			90分						



授 業 科 目 の 概 要			
(医学系研究科保健学専攻)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	統合保健学研究方法特論	<p>(概要)</p> <p>博士課程「統合保健学」のきっかけとなった看護学と医用検査学との合同研究の経緯を解説しながら、異分野共同研究の利点と問題点を考察し、今後の統合保健学研究のあり方を論ずる。また、疾病に関する研究方法について、糖尿病、高血圧症、高脂血症、脳血管障害などの生活習慣病の病因、特に発症と進展の根底にある分子生物学的背景、遺伝子異常、サイトカインの関与について述べ、疾患の予防、医療対策について看護学、医用検査学の立場からの研究方法を教授する。同時に、不妊症に対する生殖医療、遺伝子異常の解析方法と共に、これらを取り巻く医療倫理について講義する。なお、多数教員による講義内容の調和、整合性を高める目的で、全教員、全受講学生参加によるパネル式の講義を初回と最終授業にて2回行う。</p> <p>(オムニバス方式/15回)</p> <p>(1 浦上 克哉 /3回)</p> <p>分野の異なる看護学と医用検査学との合同研究により完成したタッチパネル式アルツハイマー型認知症早期診断装置開発の経緯を解説しながら、統合保健学としての研究のあり方を教授する。同時に、老化に密接に関連するアルツハイマー病および関連する神経変性疾患を対象にして、その発症に関与する遺伝子やタンパク質および環境要因について指導する。</p> <p>(2 西村 正子 /3回)</p> <p>仮説検証法における研究方法の長短、無作為コントロール設定の意義、妥当性、信頼性について論じる。さらに、質的研究方法については、主としてgrounded theory approach による解析方法と記述データの統合プロセスを教授しながら、統合保健学としての研究のあり方をさぐる。</p>	<p>オムニバス方式 /15回</p> <p>共同担当で2回の講義</p>

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	統合保健学研究方法特論	<p>(3 池田 匡 /3回) 生活習慣病に関連する主要疾患として、高血圧症、高脂血症、糖尿病、脳血管障害、冠動脈疾患などがあげられ、これらは高齢者における主要な死亡疾患でもある。生活習慣病は、単に生活習慣に基づくものではなく、そこには強い遺伝的、分子生物学的背景の関与が指摘されてきている。本講義では、この点を強調して、統合保健学としての研究方法のあり方を教授する。</p> <p>(14 安藤 泰至 /2回) 宗教と倫理の視点に立って、近年の分子生物学、ゲノム解析学、移植医療、生殖医療などの進歩における医療倫理の諸問題について様々の立場からの考え方を講義するとともに、統合保健学として倫理感にあふれる研究のあり方を教授する。</p> <p>(15 深田 美香 /2回) 音楽ならびにマッサージによるリラクゼーション、あるいは各種の皮膚保清法等について科学的根拠に基づいた分析方法と解析、評価方法を解説し、統合保健学としての研究方法のあり方を教授する。特に、従来から客観的評価が困難であった「ストレスとリラクゼーション、癒し」の科学的評価法について指導する。</p> <p>(19 難波 栄二 /1回) 遺伝子診断、遺伝子治療の実態とともに、遺伝子解析の具体的な方法を教授し、統合保健学としての研究方法のあり方を展開する。更に、ヒト遺伝子を扱う上で必然的に生じる倫理的諸問題や個人情報守秘についての考え方と対応についても指導する。</p> <p>(20 原田 省 /1回) 近年の少子化社会への対応として重要な生殖医療、出生前診断の現状と最近の進歩、その医学的意義について論じる。更に、生殖医療における保健医療のあり方とそれに伴う医療倫理について教授する。</p>	<p>オムニバス方式 /15回</p> <p>共同担当で2回の講義</p>

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	統合保健学特別研究	<p>(概要)</p> <p>看護学, 医用検査学を融合させ, 科学的根拠を基盤にして, その理解のもとに保健学としての問題点を引き出しながら, 人間の健康と福祉の増進に貢献できる統合保健学の確立をめざした特別研究の達成をめざす。</p> <p>(池田 匡)</p> <p>高血圧症, 高脂血症, 糖尿病, 脳血管障害等の生活習慣病発症の背景, ならびに遺伝的, 分子生物学的関与を理解させた上で, 山陰地方の地域ぐるみのフィールドワークを展開させる。具体的には, 定点を一定にした地域における継続的な生活習慣病研修, 定期的検診, 運動プログラムの開発を通じて統合保健学特別研究に発展させる。</p> <p>(西村 正子)</p> <p>母子をめぐる生活環境は著しく変化している。その中で, 女性のライフスタイルにおける心身の健康問題は複雑化しているのが現状である。思春期・青年期の女性, 妊産褥婦の心身の健康問題, 助産や不妊症に関する研究を深化させる。また, これまで長い期間にわたって研究を行ってきた産育風俗に関する社会文化的, 人類学的解析についても視点を換え, この地域でも展開させて歴史的資料をめざす。これらを統合保健学における研究題材にして指導する。</p> <p>(前田 隆子)</p> <p>ライフステージ各期の女性, ならびに乳児の保健, あるいは健康障害と健康問題が家族に及ぼす影響を研究題材にする。特に, 母性の発達を促進する因子と阻害する因子, 低出生体重児とその家族の支援などに重点を置き, 統合保健学として科学的根拠をもった解析方法をもとに研究指導にあたる。</p> <p>(花木 啓一)</p> <p>学校あるいは地域検診に学生を参加させ, 中期的な小児肥満に関する実態調査を指導する。特に, 血清中の各種アディポサイトカインの定量を学生に継続的に行わせて, 肥満状態と血清マーカーとの関連を体系づけるとともに, 摂食量や食餌指導, 運動プログラムの肥満への影響についても指導して統合保健学特別研究に連結させる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	統合保健学特別研究	<p>( 平松 喜美子 )</p> <p>在宅リハビリテーションに取り組む高齢者において、家族支援はその成果に影響を及ぼす重要な要因であるが、家族がそれを生活の一部として受け入れる過程は一樣ではない。患者を抱える家族のストレス適応過程を各種のストレス認知モデルを用いて人間文化的、社会文化的に追求させて特別研究に連結させる。</p> <p>( 藤井 輝明 )</p> <p>顔面に疾患や外傷のある幼児から高齢者の心の傷（トラウマ）に対して、援助活動を行っている医療・看護・教育・ジャーナリズム・心理学・カウンセリング・セルフヘルプグループなどの関係者による問題理解の方法、実践活動を教授する。幼少のころからの顔面上海綿状血管腫瘍で、差別や偏見の苦しみと対峙してきた半生をもとに、同じ障害で苦しむ当事者の実体験も分析・検討することにより、患者心理の理解を深める教材としても活用できるようにシステム化する。これを基盤にして、幼児から老人まで問題となっているいじめ、虐待、ハラスメント、排除など人権問題について人文科学的立場から、統合保健学における研究テーマとして体系化する。</p> <p>( 吉岡 伸一 )</p> <p>精神障害（てんかん、知的障害、発達障害、統合失調症など）の生活実態や就労、社会参加などの地域社会活動に向けた支援に関し、医療保健福祉の側面から実証的に探求する。また、家庭・学校・地域・職場におけるメンタルヘルスの問題について、薬物依存や様々なストレス要因について、その評価法やフィールドワーク的介入調査について指導し、特別研究に連結させる。</p> <p>( 周防 武昭 )</p> <p>細胞外マトリックスの代謝を反映する血清線維化マーカーの診断的意義やC型肝炎に対するインターフェロン療法の抗線維化作用と肝発癌抑制との関連を明らかにしつつ、さらに新たな血清線維化マーカーの開発と臨床応用ならびに肝線維化に関連するサイトカインの動態、抗線維化薬の作用機序、肝発癌との関連を発展させる。これらを、C型肝炎感染についての地域疫学調査と連動させながら特別研究として指導する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	統合保健学特別研究	<p>( 廣岡 保明 )</p> <p>肝硬変症においては、肝線維化マーカー、肝機能あるいは血小板数などによって類推する進行度と、実際の肝臓の硬さとの解離のため、肝細胞癌の手術に際して術前に推定していた以上の肝硬変に遭遇する事をしばしば経験する。硬さセンサーを搭載した超音波断層装置を用いて術前に肝臓の硬さを推定し、術後の組織学的な線維化の程度と比較する事によって硬さセンサーの有用性を検証し、特別研究として指導する。</p> <p>( 浦上 克哉 )</p> <p>現在認知症は、65歳以上の高齢者の10人に1人の頻度で存在する common disease であり、その大半を占めるアルツハイマー病は治療が可能となってきた。しかし、その早期診断のための検査法は十分ではない。タッチパネル式コンピュータを用いたスクリーニング法、髄液、血液及び尿サンプルを用いた蛋白レベルの解析の有用性を検証し、特別研究として指導する。</p> <p>( 成瀬 一郎 )</p> <p>ミュータントマウスの責任遺伝子を探索し、その遺伝子疾患の影響が、次にどの遺伝子発現に変化を与えた結果、先天異常が成立するかについて探求する。この研究により、遺伝子発現のカスケードを学び、最終的に、どの遺伝子発現が形態形成に直接的に関与するかを学ばせる。また、遺伝要因と医薬品等の環境要因との相乗効果を分子遺伝学的に調べる。このような研究によって、ヒトの発生毒性において認められる個体差を動物実験で実証する研究を指導する。また、ミュータントマウスやノックアウトマウスと、その相同疾患のヒト先天異常や遺伝子疾患について、その表現型の差を比較し、突然変異部位の特定をどのような手法で行ったかを学ばせ、特別研究を通してヒトの先天異常や遺伝子疾患についての教育・研究者を育てる。</p> <p>( 二宮 治明 )</p> <p>先天性代謝異常症であるゴーシェ病、ニーマンピック病のモデルマウスの病態解析と実験的治療を行う。これらの疾患はいずれも神経変性をきたす致命的な疾患であり、現在のところ有効な治療方法はない。これまでに各々の疾患の病態生理について得られた情報に基づき、原因遺伝子産物の安定化を目標とするシャペロン療法、対症的な薬物療法、さらに遺伝子治療の可能性について研究する。これらの治療方法開発の手段として、培養細胞レベルにおける遺伝子機能欠損の表現型の定量化と、それを指標とした治療効果の評価についての研究の流れの中で統合保健学特別研究を指導する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	統合保健学特別研究	<p>( 網崎 孝志 )</p> <p>薬物動態関連蛋白質を対象とした分子動力計算による研究を行う。一例は、血清アルブミンと薬物の結合の機構の解明を目的とする研究である。両者の動的相互作用をシミュレーションにより精査し、血清アルブミンの薬物結合特性を構造及びエネルギー両面から明らかにする。また、アミノ酸変異による結合能変化について、水分子を扱う自由エネルギー摂動計算を行い、この面からも結合機序の解明を行う。これらは、大規模分子系の計算となるため、クラスタ計算など並列処理が不可欠となる。できる限り高い台数効果を得るための並列化法についても模索する。以上、理論・技術の指導の上に、自発的な問題解決能力の養成を促し、統合保健学特別研究へと発展させる。</p> <p>( 山田 貞子 )</p> <p>臓器線維化メカニズム解明と新しい臨床検査法構築のために、コラーゲン等の線維蛋白やビトロネクチン等の接着因子を対象として、細胞外マトリックス成分について研究する。さらに、病態時のマトリックス成分の構造を電気泳動法、クロマトグラフィー、免疫化学的同定法等の基礎的方法で解析させ、特別研究として指導する。同時に、蛋白質機能に及ぼす糖鎖構造変化の解明をグリコバイオロジーの手法を用いて指導し、特別研究に発展させる。</p> <p>( 飯島 憲司 )</p> <p>先天性凝固異常症の責任遺伝子について、その組み換え体を作成し、培養細胞に組み込んで、培養細胞にタンパク発現させる。発現タンパクを用いて、酵素化学的、免疫化学的検討に加えて、分子の三次元構造解析を行い、変異タンパクの機能欠損を分子構造レベルで解析させる。さらにその知見に基づき、分子レベルで先天性凝固異常症の病因を理解できる研究者を育成する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	成育保健学特論	<p>(概要) 女性のライフスタイルにおける保健と健康問題、子供の成長発達と生活環境、小児や障害児の保健医療等の諸問題について、実態に基づいた解析と今後の対応について教授する。更に、小児の生理学的発達過程を神経生理学的手法を用いて解析するとともに、小児の肥満症や血液疾患についてその病態と遺伝子解析を含めた病因を教授し、看護系学生においても、その理解に立つて研究できる統合保健学を開拓する。</p> <p>(オムニバス方式 / 15回)</p> <p>(2 西村 正子 / 4回) 妊娠・出産・産褥期を心身とも安全に過ごせるよう支援し、あらゆる角度から心身の健康支援対策を究明する。それらの人々の性と生殖に関する健康と疾病・ケアとともに不妊症で悩む女性が希望をもって安心して治療に専念できるような心身のケアについても教授する。妊婦に関する問題として、栄養摂取と生活行動の関連、及び不妊症患者のケアについてそれぞれ評価尺度の開発に努め、女性の性と生殖、心身の健康増進対策を追及する。なお、インターネットを用いた不妊相談についてもシステム開発を行う。</p> <p>(4 前田 隆子 / 4回) 思春期から成人期に至る性の問題、性教育のありかたを探究し、健全な性のはぐくみを追及する。また妊娠中・出産後の健康管理と食生活のあり方、それらの母乳成分への影響、新生児・乳児への健康障害との関連を追求し、低出生体重児と障害のある子どもにはその家族への子育て支援法を教授する。さらに、子育てを終了した更年期の女性が骨粗鬆症などの健康障害を起こした場合の諸問題を含めて、女性のQOLや育児問題と家族機能など、女性のライフスタイルの中で、母性の機能と役割の進展を目的とした研究方法を展開させる。</p> <p>(5 花木 啓一 / 4回) 小児における肥満症は近年急速に増加がみられ、それへの対応が求められている。本疾患は単なる摂食過多ではなくて、脂肪細胞を中心とする遺伝子情報の不均衡に基づくものであることが明らかにされてきている。本講義では肥満症における発症に関与する遺伝子メカニズムとともにその診断法、治療法について統合保健学の立場から科学的に教授する。</p>	オムニバス方式 / 15回

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専	成育保健学特論	<p>(16 飯島 憲司 / 3回)</p> <p>血友病を代表とする先天性凝固異常症は、ただ単に出血あるいは血栓の危険性があるだけでなく、一生涯を通じて日常生活に多大な制約をもたらす疾患である。その多くが小児期より発症し、そのため被検試料も限られており、的確に診断するためには系統的な検査計画を立てる必要がある。また本疾患は遺伝性のため、現在のところ根本的な治療法はなく、両親も含めた患者のQOLに対する心理的な支援も必要である。本講義では先天性凝固異常症の分子生物学的な背景を解説し、それに基づいた系統的な検査診断法及び治療方針を教授するとともに、看護学系学生に重要な家族支援を含めた患児への支援体制確保についても講義する。</p>	オムニバス方式 / 15回
門  科  目	成育保健学演習	<p>(概 要)</p> <p>女性のライフスタイル各期の保健と健康問題、子供の発達と健康に関する生活環境、障害児の保健医療等の諸問題について、的確に把握し、対象者のニーズに即した支援とケアの計画、実践できる能力育成のため、施設、病院、地域の福祉センター等における演習を強力に進めながら、特別研究に発展させる。これと同時に、障害児の神経生理学的手法を用いた解析方法、小児の肥満症や血液疾患における遺伝子解析を実践、演習させ、その理解に立って特別研究の深化に努めさせる。</p> <p>(オムニバス方式 / 15回)</p> <p>(2 西村 正子 / 3回)</p> <p>女性の性と生殖に関する健康と疾病・ケアの問題を探求する。特に、不妊症に対する生殖医療に重点を置き、医療現場での実践によりその実態を理解させるとともに、超音波による胎児像の判別と臓器評価、胎児心拍モニターの評価能力を深化させる。同時に不妊治療における倫理、心身のケア、医療費に関する諸問題も解析させて総合的な不妊治療の理解を展開させるとともに、前述の妊婦に関する評価尺度の開発についても演習として学生に参加させる。</p> <p>(4 前田 隆子 / 3回)</p> <p>女性におけるリプロダクティブヘルス・ライツ、育児期女性の健康とQOL、新生児ケア等の内外の文献により問題点を抽出させるとともに、これらに関する施設における演習の中から問題点を実践させて統合保健学特別研究に発展させる。</p>	オムニバス方式 / 15回



科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専	成育保健学演習	<p>(5 花木 啓一 /4回)  学校あるいは地域健診に積極的に学生とともに参加し、各種小児疾患の早期診断に努めるとともに、大規模な小児肥満の実態調査を展開させる。特に血清中における肥満マーカーの検出及び遺伝子異常の検出法を演習させフィールドワークの拡充を図り、統合保健学特別研究につなぐ。</p> <p>(16 飯島 憲司 /5回)  凝固線溶因子の多くは酵素タンパクである。この視点から、先天性凝固異常症の変異因子について、酵素化学的、免疫化学的な分析と同時に分子生物学的な解析を行い、酵素タンパクの機能と構造の関連について演習させる。</p>	オムニバス方式/15回
門          科          目	成人・高齢者保健学特論	<p>(概要)  成人、高齢者における生活習慣病、肝疾患などにおける病因、病態について科学的根拠に基づいて、その予防対策、治療とともに、罹患後の生活システムの構築について統合保健学の確立をめざす。</p> <p>(オムニバス方式 /15回)</p> <p>(3 池田 匡 /3回)  糖尿病、循環器疾患、腎疾患をはじめとする生活習慣病は、山陰地方で特に多い高齢者の主要な死亡原因でもある。近年、これら生活習慣に起因するといわれる疾患も、その背景に強い遺伝的、分子生物学的背景の関与が指摘されているが、ここでは、これらの疾患の成因解析と病態について動物実験の成果をふまえて教授する。</p> <p>(6 藤井 輝明 /3回)  高齢者の健康づくりのため老人看護・保健の生活援助をベースにしながら、身体活動、レクリエーション、全国的にもユニークな温泉・銭湯いきいき健康づくり運動を教授する。高血圧、動脈硬化、糖尿病等生活習慣病の治療・予防に鳥取県の地域特性である豊富な温泉を利用した住民参加型のコミュニティ運動の可能性について理解を深めさせる。さらに、高齢者の日常の健康及び体力の維持増進という観点から、軽度な身体活動・レクリエーションによるこれら疾患の予防効果を理解させる。</p>	オムニバス方式/15回

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	成人・高齢者保健学特論	<p>(7 平松 喜美子 / 3回)</p> <p>成人期における人々が自立した生活を維持するための、生活習慣病の病因に基づいた健康教育による一次予防の重要性を教授する。同時に、医療処置を受けながら在宅で過ごす人々に対し、医療人、家族、地域住民が一体化した地域医療のあり方を強調する。具体的にはエンパワーメントによる糖尿病教育や、臨床における科学的根拠に基づいた看護技術の実験的検証、さらに癌患者の終末期を在宅で迎えるための家族に対する技術援助の方法について研究の展開方法を教授する。</p> <p>(8 周防 武昭 / 3回)</p> <p>原発性の大部分を占める肝細胞癌のほとんどのものは発癌のメカニズムが他の癌と全く異なる。即ち、ウイルス感染による急性肝炎から慢性肝炎を経て肝硬変症の経過の中で、肝癌の発生を招く。このため、肝炎ウイルスの感染の発癌機構や肝線維化の発生機序を明らかにするとともに、慢性肝炎から肝線維化にいたる経過や血清マーカーについて教授する。</p> <p>(9 廣岡 保明 / 3回)</p> <p>原発性肝細胞癌に対する癌検診が始まって4～5年経過しているが、まだ十分な成果は得られていないのが現状である。本特論では、肝臓癌の早期発見を目的とした血清マーカーと超音波診断を用いた地域ぐるみの癌集団検診の意義と問題点について教授する。同時に乳癌に対する超音波診断を用いた癌検診のあり方と問題点についても講義する。</p>	オムニバス方式 / 15回
	成人・高齢者保健学演習	<p>(概要)</p> <p>生活習慣病、肝臓疾患について、その疾患発生に関与する成因、その予防対策とケアに関して、統合保健学の立場から、科学的根拠に基づいた研究方法のあり方について演習、教授する。これとともに、在宅医療における介護家族の概念や、変化する家族機能の社会的要求について議論を交わし、生活習慣病及びその家族のQOLに焦点を当て、効果的な家族看護について実践的に探求させる。</p> <p>(オムニバス方式 / 15回)</p> <p>(7 平松 喜美子 / 5回)</p> <p>生活習慣病、高齢者の在宅医療における家族看護の方法や援助ニーズ、より良い家族構成間の関係性保持の方策について議論を交わすとともに、効果的な家族看護のあり方について現場を含めて実践的に演習させる。同時に、生活習慣病や高齢者転倒予防のための運動療法の習慣化における運動プログラムの作成に関して、運動が自律神経系、内分泌系に及ぼす影響についてのエビデンスを基盤とした研究方法について実践的に演習させる。</p>	オムニバス方式 / 15回

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科	成人・高齢者保健学演習	<p>(8 周防 武昭 / 4回) 山陰地方は人口移動が少なく、長期定点調査が行われやすい環境にある。地域住民を対象にして、肝炎患者の長期追跡により、肝炎ウイルスマーカーの推移と肝癌発生との関連及び感染経路に関する疫学調査について指導する。特に、看護系学生には感染予防対策と感染後の治療に伴う諸問題、医用検査系学生には、超音波検査と腫瘍マーカーを用いた肝癌の地域検診体制確立に重点を置いた演習を行う。</p> <p>(9 廣岡 保明 / 3回) 地域住民を対象として、各地域ごとに超音波診断装置を用いた定期的な集団検診体制の確立について演習させる。対象臓器は頸部、胸部、腹部疾患であるが、特に甲状腺、乳腺、肝・胆・膵・脾・腎・子宮・卵巣疾患を中心にする。看護系学生にはそれらの臓器の悪性疾患発見から入院治療、退院後の再発発見に関する長期ケアと追跡に重点を置く。医用検査学の学生には、超音波診断技術の向上と、各種機器の長所、短所の使い分けを中心とした演習に重点を置く。</p> <p>(17 山田 貞子 / 3回) 細胞外マトリックスの研究は、プロテオミクスや再生医療の流れの中で重要な領域となりつつある。細胞外マトリックスの病態代謝と、これに対する新しい検査マーカーの探索に取り組み、臨床対応を目指すとともに薬物治療、活性酸素の影響、さらに加齢との関連で研究を深めさせる。また、セルフメディケーション時代を視野に入れ、血液や尿を対象とする正確で簡易な自己検査法や在宅検査法の研究、開発について実践的に演習させる。</p>	オムニバス方式 / 15回
	地域保健学特論	<p>(概要) 日本における高齢化現象は、今後も加速されることが予測されており、その対策が急務となっている。山陰地方は全国でも有数の高齢化地域であり、人口移動が少なく、地域に密着した高齢化に関する固定研究が行いやすい環境にある。認知症や精神障害者を中心にして、地域医療のあり方、地域における自立障害者支援対策の実践と問題点を明らかにして今後の対策を教授する。</p> <p>(オムニバス方式 / 15回)</p>	オムニバス方式 / 15回
目			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科	地域保健学特論	<p>(1 浦上 克哉 / 7回)            認知症は、65歳以上の高齢者の10人に1人の割合で見られる疾患であり、その早期発見・早期治療はいまだ困難な現状である。認知症のうちでも、アルツハイマー型認知症に焦点を当て、その病因、臨床的診断と治療法について教授する。病因については、分子生物学的背景を重視し、統合保健学の立場から予防、早期診断についての研究方法を探る。</p> <p>(10 吉岡 伸一 / 5回)            精神障害者（てんかん、知的障害、統合失調症など）を対象にして、地域生活を営み、自立していくうえで生じてくる問題点や効果的な地域医療支援システムの構築と保健医療福祉の専門職が担う役割について教授する。また、家庭・学校・地域・職場におけるメンタルヘルスについて、統合保健学の立場から、予防的視点を取り入れ、問題解決に向けた方策についての研究方法を探る。</p> <p>(21 谷垣 静子 / 3回)            高齢者、障害者のみならず、介護者としてそれらの家族を対象にして、在宅医療、高齢者施設医療と保健医療システムについて、効果的な地域医療システムの構築と専門職としての看護師の役割を教授する。地域住民の健康を身体、心理、社会制度の側面からとらえ、地域保健医療に関する課題の解決を可能にする方策を制度的、実践的に探求させる。</p>	オムニバス方式 / 15回
科目	地域保健学演習	<p>(概要)            アルツハイマー病の発症に関与する脳内特殊蛋白蓄積の解析方法、及び本疾患の早期診断システムを用いた疾患予防に関する地域疫学調査を指導する。同時に、成人におけるストレスの対応や高齢障害者を取り巻く諸問題について、より良い地域ケアシステムの構築をめざした実践活動を演習させる。</p> <p>(オムニバス方式 / 15回)</p> <p>(1 浦上 克哉 / 7回)            アルツハイマー病の発症に関与する脳内特殊蛋白の蓄積に関する分子生物学的解析方法と各種の治療法による治療効果について培養細胞を用いて指導する。同時に、当研究室で開発されたコンピュータによる本疾患の早期診断システムを臨床例に応用し、その効果について長期にわたる実践的疫学調査により検証できるシステムを構築して特別研究へ発展させる。</p>	オムニバス方式 / 15回

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専          門	地域保健学演習	<p>(10 吉岡 伸一 / 5回)</p> <p>精神障害者(てんかん, 知的障害, 発達障害, 統合失調症など)が, 社会的自立に向けて抱える多くの精神医学的課題について, また, 社会精神医学的及び福祉的観点から研究方法や支援の在り方についてフィールドワークを中心にして指導する。さらに, 個人, あるいは社会(学校, 家庭, 職場)におけるストレスの評価方法や管理方法について教授するとともに, ストレス対応の立場から異職種連携向上への実践的な問題について指導する。</p> <p>(21 谷垣 静子 / 3回)</p> <p>障害を有する高齢者, 難病患者を対象に, 地域ケアシステムの構築とその評価方法について実践を通じて教授する。特に, 在宅医療における住環境, 経済評価について, コーディネイト法とマネジメント法を指導する。</p>	オムニバス方式 / 15回
	先進保健学特論	<p>(概要)</p> <p>胚子の形態形成や生体の恒常性を保つメカニズムに, 分子生物学的な背景があることは周知のことであり, 先天異常, 生活習慣病, 悪性腫瘍における遺伝子異常を含めた分子生物学的解析方法を教授する。また, 新薬開発や遺伝多型と疾患・薬剤応答性の解析などに期待されるバイオインフォマティクスのシミュレーション技術についても教授する。これらの知識を基盤にして, 科学的根拠に基づいた知識を保健学に役立てる方策について指導する。</p> <p>(オムニバス方式 / 15回)</p> <p>(11 成瀬 一郎 / 4回)</p> <p>先天異常を持って生まれた人は, 一生そのハンデを背負って生きていくことになる。そのような先天異常の発症を少しでも減らすのが, 我々の使命と考えている。先天異常の原因として遺伝要因と環境要因が考えられるが, それらをリストアップし, どのようにして先天異常の原因であると実証されてきたかについて理解させ, また先天異常成立のメカニズムについて教授する。さらに, ヒト先天奇形症候群については, 最新のデータから遺伝病であることが解ってきた疾患についていくつかの例を挙げ, 遺伝子診断の手法を学ばせる。ヒト遺伝子疾患の相同疾患動物として多くのノックアウトマウスが作られてきたが, ヒトとマウスでの表現型の相違についても指導する。</p>	オムニバス方式 / 15回
科       目			

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	先進保健学特論	<p>(12 二宮 治明 / 4回)          先天性代謝異常症のほとんどについてその原因遺伝子が確定しているが、病態の発生メカニズムは不明の場合が多い。ゴーシェ病、ニーマンピック病など、神経変性をきたす脂質代謝異常症はその典型的な例である。その病態生理の解明に向けて、現在行われている最先端の研究を紹介し、さらにその成果を応用した発症予防、治療へのアプローチを教授する。また、これらの疾患の病態は、各々の原因遺伝子が正常状態で果たす生理機能を理解するために不可欠の情報を提供している。病態の解析が生理機能の理解に貢献してきたこれまでの研究の進展を教授する。</p> <p>(13 網崎 孝志 / 4回)          バイオインフォマティクスには、データを生み出すための第一原理的・理論的な取り組みと、得られたデータを解析するための情報科学・数理統計学的取り組みという2つの流れがある。本授業科目では、前者の代表例として分子シミュレーションを取り上げ、その原理ならびに変異蛋白質の機能変化予測などの適用例について教授する。また、後者のバイオスタティスティクスの例として母集団/個別薬物動態解析を取り上げ、混合効果モデルや階層的ベイズ法などによる先端的データ解析について教授する。</p> <p>(18 笠城 典子 / 3回)          生体の恒常性を守るメカニズムの1つとして、各臓器細胞におけるプログラム化された細胞死（アポトーシス）の存在が指摘される。胎生期でのプログラム化細胞死の破綻は奇形を惹起し、生体においては過剰増殖反応としての自己免疫病、癌細胞の発生や進展にも関与していることを教授する。同時に、創傷治癒、褥瘡治癒過程におけるサイトカイン、細胞増殖因子、各種コラーゲンの役割について論じる。</p>	オムニバス方式/15回

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目目	先進保健学演習	<p>(概要)            先天異常発症のメカニズム、遺伝子疾患の解析方法、生体の恒常性を守るメカニズムについて、ミュータントマウスやノックアウトマウスなどの実験動物、ヒト癌細胞やヒト培養細胞を用いて、具体的事例を提示して演習させる。更に、バイオインフォマティクス・バイオスタティスティクスの保健医療領域における展開について演習させる。これらの過程で、科学的根拠に基づく保健学の重要性を認識させる。</p> <p>(オムニバス方式 / 15回)</p> <p>(11 成瀬 一郎 / 4回)            各種のミュータントマウスやノックアウトマウスなどの実験動物の表現型と遺伝子疾患との関連、また遺伝子診断の実践的方法について教授する。これら実験動物と、その相同疾患であるヒト先天異常や遺伝子疾患を対比させることによって、臨床にも応用の利く知識を得させる。</p> <p>(12 二宮 治明 / 4回)            遺伝子欠損細胞株を用いて、培養細胞レベルでの遺伝子機能の解析方法について演習させる。さらに、先天性代謝異常症モデルマウスを用いて、その診断の方法および病態の評価方法を演習させる。具体的には、ゴーシェ病、ニーマンピック病のモデルマウスのDNAを用いた遺伝子診断の方法、その組織を用いた病理学的検索、さらに電気生理学、行動学的評価方法を学ばせる。加えて、実験動物を用いたこれらの解析方法が、ヒトに対してどのように応用可能であるかを論じる。</p> <p>(13 網崎 孝志 / 4回)            分子動力学計算による各種自由エネルギー計算方法(リガンド結合能など機能の予測法)について、文献を通して、原理・有用性・限界について演習をさせる。更に、このような解析に用いられる並列分散処理を中心とする計算システム基盤技術についても解説する。</p> <p>(18 笠城 典子 / 3回)            培養下で株化されたヒト腫瘍細胞、正常細胞を用い、主に免疫組織化学染色やwestern blotting法を用いてアポトーシスの検出方法について演習させる。同時に、創傷や褥瘡治癒過程における組織免疫化学的手法を用いたサイトカイン、細胞増殖因子、各種コラーゲンの検出法についても実践、演習させる。</p>	オムニバス方式 / 15回